

Oracle Enterprise Manager

日本語リリース・ノート

リリース 2.1

2000年4月

部品番号: J00982-03

目次

1. 概要	3
1.1 この文書の目的.....	3
1.2 リリース 2.1 製品コンポーネント	3
1.3 日本語 Quick Tour CD-ROM.....	4
1.4 ソフトウェア用件	4
2. 互換性一覧表.....	5
2.1 Enterprise Manager コンポーネントと Oracle Server.....	5
2.2 Intelligent Agent と Oracle Server.....	6
2.3 Enterprise Manager リリースと Intelligent Agent	6
2.4 Enterprise Manager 製品と Management Server / リポジトリ	7
3. Enterprise Manager Configuration Assistant	8
3.1 リポジトリの作成	8
3.2 リポジトリの削除	8
4. コンソールに関する問題.....	8
4.1 コンソールの起動	8
4.2 検出	9
4.3 複数管理者	9
4.4 ジョブ・システムとイベント・システム	9
4.5 ポケットベル	10

ORACLE®

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

4.6	ポケットベルと電子メールのブラックアウト	10
4.7	ウィザード	10
4.8	その他	10
5.	ブラウザベースの Enterprise Manager に関する問題	11
6.	DBA Management Pack に関する問題	13
7.	Management Server に関する問題	14
8.	リポジトリの移行とアップグレードに関する問題	14
9.	統合アプリケーションに関する問題	15
9.1	Oracle Applications Manager に関する問題	15
9.2	Oracle Replication Manager に関する問題	15
9.3	Oracle <i>interMedia</i> Text Manager に関する問題	15
9.4	Oracle Enterprise Security Manager に関する問題	16

1. 概要

1.1 この文書の目的

このリリース・ノートには、Oracle Enterprise Manager リリース 2.1 製品と、ドキュメントに記載されている機能との相違点が記載されています。さらに、統合アプリケーション (Oracle Developer Server Forms Manager、Oracle Applications Manager など) の使用開始前に、各アプリケーションの Readme ファイルに目を通しておいてください。インストールされている場合は、\$ORACLE_HOME/relnotes/EM/ディレクトリにあります。

このリリースで導入された新機能の詳細は、『Oracle Enterprise Manager 概説』および『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』を参照してください。

1.2 リリース 2.1 製品コンポーネント

コンポーネント名	リリース番号
Oracle Management Server	2.1.0.1.0
Oracle Applications Manager Server Extensions	2.1.0.0.0
Oracle Enterprise Manager Migration Assistant	2.1.0.1.0
Oracle Enterprise Manager Client	2.1.0.0.0
Oracle Enterprise Manager Console	2.1.0.0.0
Oracle Enterprise Manager Integrated Applications	2.1.0.0.0
Oracle Applications Manager	2.1.0.0.0
Oracle interMedia Text Manager	2.1.0.0.0
Oracle Enterprise Security Manager	2.0.0.0.0
Oracle Developer Server Forms Manager	2.1.0.0.0
Net8 Integration	8.1.6.0.0
Oracle Application Server Manager	2.1.0.0.0
Oracle Parallel Server Manager	2.1.0.0.0
Oracle Replication Manager	2.1.0.0.0
Oracle Spatial Index Advisor	2.1.0.0.0 Beta *
Oracle Directory Manager	2.0.6.0.0
Oracle DBA Management Pack	2.1.0.1.0
Oracle Schema Manager	2.1.0.0.0

Oracle Storage Manager	2.1.0.0.0
Oracle Security Manager	2.1.0.0.0
Oracle Instance Manager	2.1.0.0.0
SQL*Plus Worksheet	2.1.0.0.0
Oracle DBA Studio	2.1.0.0.0
Oracle Enterprise Manager Web Site	2.1.0.1.0
Oracle Application Server Listener	4.0.8.1.0
Oracle Enterprise Manager Quick Tours	2.1.0.0.0
Oracle DBA Management Pack Quick Tour	2.1.0.0.0
Oracle Enterprise Manager Quick Tour	2.1.0.0.0

注 1: コンポーネントは製品メディアに含まれる製品コンポーネント一覧を記載したもので、製品ライセンスとは対応していません。

注 2: *印のついているコンポーネントは、2000 年 4 月 28 日現在、サポートされません。

1.3 日本語 Quick Tour CD-ROM

Oracle Enterprise Manager リリース 2.1 内には、英語版 Quick Tour が含まれています。日本語版 Quick Tour を参照する場合は、添付の日本語 Quick Tour CD-ROM を使用してください。

詳細は、日本語 Quick Tour CD-ROM 内の readme.htm ファイルを参照してください。

1.4 ソフトウェア要件

Oracle Enterprise Manager リリース 2.1 をインストールした後は、同一マシンに Oracle Enterprise Manager リリース 2.0 をインストールしないでください。JRE (Java Runtime Environment) のバージョンの不整合のため、Oracle Enterprise Manager が正常に動作しなくなります。

2. 互換性一覧表

2.1 Enterprise Manager コンポーネントと Oracle Server

次の表に、Oracle Enterprise Manager リリース 2.1 のコンポーネントと Oracle Server の各リリースとの互換性を示します。コンポーネントが特定のサーバー・リリースで動作することが確認されている場合、その項目に「あり」と記されています。コンポーネントが特定のサーバー・リリースで動作することが確認されていない場合、その項目に「なし」と記されています。特殊な状況については注記されています。

コンポーネント	Oracle Server リリース番号		
	7.3.4	8.0.x	8.1.x
Management Server	あり	あり	あり
リポジトリ	あり	あり	あり
サービス検出*	あり	あり	あり
ジョブ・システム*	あり	あり	あり
イベント管理システム*	あり	あり	あり
DBA Management Pack			
DBA Studio	あり	あり	あり
Instance Manager	あり	あり	あり
Schema Manager	あり	あり	あり
Security Manager	あり	あり	あり
Storage Manager	あり	あり	あり
SQL*Plus Worksheet	あり	あり	あり
バックアップ管理ウィザード	なし	あり	あり
データ管理ウィザード	なし	あり	あり

* これらのコンポーネントのすべてまたは一部の機能は、Intelligent Agent が必要となります。

2.2 Intelligent Agent と Oracle Server

Oracle Intelligent Agent は、同一リリースまたは旧リリースのデータベースと互換性があります。しかし、旧リリースの Intelligent Agent と、それより新しいリリースの Oracle データベースは互換性がありません。新しいリリースの Intelligent Agent を使用して、旧リリースのデータベースを管理する場合、Intelligent Agent は、それ自身の Oracle ホーム、または Intelligent Agent と同じバージョンの Oracle ホームにインストールする必要があります。

次の表に、Intelligent Agent の各リリースと Oracle Server の各リリースとの互換性を示します。Intelligent Agent のリリースが特定のサーバー・リリースで動作することが確認されている場合、その項目に「あり」と記されています。Agent が特定のサーバー・リリースで動作することが確認されていない場合、その項目に「なし」と記されています。補足コメントは注記されています。

Intelligent Agent リリース番号	Oracle Server リリース番号				
	7.3.4 注 1	8.0.5.x	8.0.6	8.1.5	8.1.6
Intelligent Agent v7.3.4	あり	なし	なし	なし	なし
Intelligent Agent v8.0.4	あり	なし	なし	なし	なし
Intelligent Agent v8.0.5 注 2	あり	あり	なし	なし	なし
Intelligent Agent v8.0.6 注 2	あり	あり	あり	なし	なし
Intelligent Agent v8.1.5 注 2	あり	あり	あり	あり	なし
Intelligent Agent v8.1.6 注 2	あり	あり	あり	あり	あり

注 1: 個別にライセンス契約が必要な Management Pack の一部の機能は、7.3.4 以前のリリースでは使用できません。制限の詳細は、各 Management Pack の日本語リリース・ノートを参照してください。

注 2: Intelligent Agent リリース 8.0.5、8.0.6 および 8.1.x には、データ収集サービス (Data Gatherer) が付属しています。

2.3 Enterprise Manager リリースと Intelligent Agent

次の表に、Enterprise Manager 2.x リリースと Intelligent Agent の各リリースとの互換性を示します。Enterprise Manager のリリースが特定の Agent リリースで動作することが確認されている場合、その項目に「あり」と記されています。Enterprise Manager が特定の Agent リリースで動作することが確認されていない場合、その項目に「なし」と記されています。

Enterprise Manager リリース番号	Intelligent Agent リリース番号			
	7.3.4	8.0.x	8.1.5	8.1.6
EM v2.0.4 注意 1	あり	あり	あり	なし
EM v2.1.0 注意 1	あり	あり	あり	あり

注意 1: Windows NT で実行中の Intelligent Agent とともに Enterprise Manager リリース 2.x を実行するには、Intelligent Agent リリース 8.1.5 を使用するか、既存のリリース 7.3.x または 8.0.x の Intelligent Agent を Intelligent Agent パッチ・リリース 7.3.4.1 または Intelligent Agent パッチ・リリース 8.0.5.1 にアップグレードする必要があります。これらのパッチのいずれかを入手するには、オラクル社カスタマ・サポート・センター担当者にご連絡ください。

2.4 Enterprise Manager 製品と Management Server / リポジトリ

Enterprise Manager コンソール、DBA Management Pack、個別にライセンス契約が可能な Management Pack、Management Server およびリポジトリは、すべて同じリリースのものである必要があります。たとえば、リリース 2.0 の Management Server とリポジトリをリリース 2.1 のコンソールとともに使用することはできません。また、リリース 2.1 の Management Server とリポジトリをリリース 2.0 の Management Pack とともに使用することはできません。Enterprise Manager リリース 2.1 製品では、リリース 2.1 の Management Server とリポジトリを使用する必要があります。これは、次のいずれかの製品が参照するためです。

- Oracle Enterprise Manager コンソール
- Oracle DBA Management Pack
- Oracle Tuning Pack
- Oracle Diagnostics Pack
- Oracle Change Management Pack
- Oracle Management Pack for Oracle Applications
- Oracle Management Pack for SAP R/3
- Oracle Standard Management Pack

既存の Management Server とリポジトリのバージョンが古い場合は、最新のバージョンに移行またはアップグレードできます。Management Server とリポジトリをリリース 2.1 に移行またはアップグレードする場合、リポジトリとともに使用する Enterprise Manager 製品がすべてリリース 2.1 であることを確認してください。たとえば、Diagnostics Pack リリース 2.0 や Change Management Pack リリース 2.0 をまだ使用しているのであれば、Management Server とリポジトリはリリース 2.1 にアップグレードしないでください。使用するリリース 2.1 の Pack

ソフトウェアを取得する前に、Management Server とリポジトリをリリース 2.1 にアップグレードすると、古い Management Pack 製品は使用できなくなります。

移行とアップグレードの詳細は、『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド』を参照してください。

3. Enterprise Manager Configuration Assistant

3.1 リポジトリの作成

3.1.1 リリース 8.0.x または 8.1.5 のデータベースにリポジトリを作成する場合、リポジトリが格納されるデータベースに最初にパッチを適用する必要があります。適切なパッチを MetaLink またはオラクル社カスタマ・サポート・センター担当者から入手できます。

必要なパッチを適用しないと、非常に大きなジョブまたはイベント履歴（あるいはその両方）をコンソールから取り出したときに、Management Server が突然停止することがあります。（バグ 995598）

3.1.2 リリース 7.3.4 のデータベースにリポジトリを作成する場合、（リリース 7.3.4 では ORACLE_HOME¥database¥内にある）init.ora ファイル内の COMPATIBLE パラメータが「7.3.0.0.0」に設定されている事を確認してください。このパラメータが 7.3.0.0.0 に設定されていないと、Enterprise Manager Configuration Assistant の動作中に SQL 例外が発生します。（バグ 1177728）

3.2 リポジトリの削除

3.2.1 Enterprise Manager Configuration Assistant は、同一リリースのリポジトリの削除のみをサポートします。たとえば、Configuration Assistant 2.1.0.0.0 は、リリース 2.1.0.0.0 リポジトリのみ削除できます。

4. コンソールに関する問題

4.1 コンソールの起動

4.1.1 コンソールの起動後に別のウィンドウを選択した場合、ログイン・ダイアログが手前に表示されません。アクティブなウィンドウをすべて最小化するか、[Alt]->[Tab]を使用してコンソール・アプリケーションを選択し、ログイン・ダイアログを手前に表示する必要があります。（バグ 806713）

- 4.1.2 コンソールの起動時に各ペインが正しく表示されない場合、コンソールの任意の部分のサイズを変更すると、この問題を解決できます。(バグ 809689)
- 4.1.3 コンソールからの接続用に Management Server 名を設定するときには、ノードの完全修飾名 (foo.us.oracle.com など) を使用することをお勧めします。完全修飾名を使用しないと、Management Server と同じ DNS ドメインに属していないマシンでコンソールが実行されている場合に、一部の Management Pack ツールをコンソールから起動できない可能性があります。完全修飾名を使用してもコンソールから一部のツールを起動できない場合は、ローカルの'hosts'ファイルに、Management Server が実行されているホストの IP アドレスを示すエントリを追加してください。

4.2 検出

- 4.2.1 全く同じ名前の複数のサービスが検出された場合、サービス・タイプに関係なく、検出されたサービスのうち 1 つのみがナビゲータに表示されます。(バグ 640068)
- 4.2.2 Intelligent Agent 8.1.6.0.0 が動作しているノードを検出した後、Intelligent Agent を 8.0.6.0.0 にダウングレードし、そのノードを再検出すると、「VNI-4042: エージェントとのセキュア通信に失敗しました。」というエラーが表示されます。Management Server を停止して再起動すると、このエラーは回避されます。(バグ 1186347)

4.3 複数管理者

- 4.3.1 同時に 2 つのオブジェクトが編集される場合、最後にコミットされた編集作業により、その前にコミットされた変更作業の結果が警告なしに上書きされます。(バグ 645347)

4.4 ジョブ・システムとイベント・システム

- 4.4.1 ジョブ出力画面は編集可能ですが、変更された情報は保存されません。
- 4.4.2 ライブラリに保存されたイベントを編集する場合、または既存のイベントの「類似作成」を選択した場合、そのイベントのターゲット・タイプを変更できません。別のターゲット・タイプを指定して、全く新しいイベントを作成する必要があります。(バグ 1049787)
- 4.4.3 ジョブまたはイベント履歴のリフレッシュを選択したときに、リフレッシュする履歴の量が多いと、最初はペインに何も表示されません。この問題を解決するには、スクロール・バーの位置を調整してください。(バグ 819774)

4.5 ポケットベル

- 4.5.1 コンソールからテスト用のポケットベル・メッセージを送信した場合に、実際にはポケットベルが通知を受信していないにもかかわらず、「テスト・ページは正常に送信されました」というメッセージが表示されることがあります。この成功メッセージは、ポケットベル・キャリアがデータを受信したことを示しています。ポケットベル自体がデータを受信したことが確認されたわけではありません。（バグ 1022235）
- 4.5.2 Windows NT 版の Intelligent Agent リリース 8.0.5.0.0 は、ポケットベル・サービスの検出をサポートしていません。ポケットベル・サービスの検出をサポートするには、このバージョンの Intelligent Agent を 8.0.5.1 以降にアップグレードする必要があります。このパッチまたは新しいバージョンを入手するには、オラクル社カスタマ・サポート・センター担当者にご連絡ください。使用している Intelligent Agent リリース 8.0.5.0.0 をすぐにアップグレードできないが、Enterprise Manager リリース 2.1 のポケットベル機能を使用する必要があるという場合は、Intelligent Agent の `Oracle_Home\net80\agent\config` にある `nmiows.tcl` ファイル内の「Set Parameter」コマンドの直前に、次の行を追加してください。

```
Global Parameters ServiceType HostName ServicePort ServiceName
```

4.6 ポケットベルと電子メールのブラックアウト

- 4.6.1 ポケットベルと電子メールのブラックアウトを特定の曜日に設定し、指定した曜日の真夜中を超えるブラックアウトを行うことはできません。たとえば、水曜日の午後 11 時 30 分に開始して木曜日の午前 1 時 30 分まで続く 2 時間のブラックアウトは作成できません。これを行うには、水曜日の午後 11 時 30 分から午前 12 時と、木曜日の午前 12 時 1 分から午前 1 時 30 分という、2 つの別々のブラックアウトを作成する必要があります。（バグ 1036820）

4.7 ウィザード

- 4.7.1 エクスポート・ウィザードで、起動したときに現れる最初の画面の見出しが文字化けしています。（バグ 1045649）
- 4.7.2 各ウィザード下のボタンは英語表示されます。（バグ 1116826）

4.8 その他

- 4.8.1 1 つのウィンドウで項目を選択したときに、その前に選択した項目がクリアされないため、2 つの項目が同時に選択されているように見ることがあります。最後に選択し

た項目が実際に選択されている項目です。通常、新しいウィンドウで別の項目を選択すると、この問題を解決できます。(バグ 618771)

- 4.8.2 「グループ」ペインが「イベント」ペインと同期していない場合、手動で「グループ」ペインをリフレッシュして同期をとることができます。「グループ」ペインを手動でリフレッシュするには、ナビゲータの「グループ」フォルダを縮小してから再度拡張してください。
- 4.8.3 「リストの保存」ダイアログ内の「参照」ボタンは、Windows95/98 では正しく動作しません。さらに、Web ブラウザをインストールしていない場合は、WindowsNT でも動作しません。

WindowsNT では、Web ブラウザをインストールすると動作するようになります。また、Windows95/98 では、ORACLE_HOME¥sysman¥config¥内にある clientconfig.properties ファイル内の user.browser プロパティを追加し、Web ブラウザを指定すると、動作するようになります。

たとえば、Web ブラウザが Netscape であり、netscape.exe が C:¥Program Files¥Netscape¥Communicator¥Program¥にある場合、次のように clientconfig.properties に指定をしてください。

```
user.browser=C:/Program Files/Netscape/Communicator/Program/netscape.exe
```

(バグ 1176859)

- 4.8.4 Windows NT サービスパック 5 および ATI ディスプレイ・ドライバを使用している場合、Enterprise Manager を表示画面以外の部分に移動すると、メモリー・ダンプが発生します。
- 4.8.5 コンソールの「システム」-「tnsnames.ora へのサービスの追加」メニューにより tnsnames.ora ファイルの更新を行うと、大きさが 0 バイトの tnsnames.ora ファイルが作成されます。tnsnames.ora にサービスを追加する場合は、Net8 Configuration Assistant を使用してください。(バグ 1224539 および 1224498)

5. ブラウザベースの Enterprise Manager に関する問題

- 5.1 同じマシン上のブラウザから複数のコンソールを同時に実行しないでください。同時に使用できるブラウザベースのコンソール(関連するデータベース管理アプリケーションを含みます)は1つです。(バグ 818695)

- 5.2 コンソールをブラウザから起動したときに、コンソールがウィンドウの左上のセクションに小さく表示されることがあります。この問題を解決するには、コンソール・ウィンドウのサイズを変更してください。（バグ 741472）
- 5.3 URL を入力してブラウザベースの Enterprise Manager を起動するときに、URL にドメイン名が含まれていると、エラーが発生することがあります。この問題が起こった場合、次の 2 つの回避方法があります。

- (1) URL を入力するときに、ドメイン名を省略してください。たとえば、
`http://foo.us.oracle.com:3339/oem_webstage/EMWebSite.html` ではなく
`http://foo:3339/oem_webstage/EMWebSite.html` と入力してください。
- (2) ディレクトリ `/$ORACLE_HOME/ows/admin/website40/oem` にある、Oracle Application Server リスナーの構成ファイル `svoem.cfg` を変更してください。たとえば、この問題が起こった場合、このファイルの先頭の `foo.us.oracle.com` は次のように設定されているはずです。

```
ANY 3339 NORM foo /  
/$ORACLE_HOME/ows/admin/website40/oem/ NONE
```

```
ANY 3339 NORM foo./  
/$ORACLE_HOME/ows/admin/website40/oem/ NONE
```

この問題は、2 行目にドメイン名を追加するだけで解決できます。つまり、ドメイン名が `us.oracle.com` の場合は、2 行目を次のように変更します。

```
ANY 3339 NORM foo.us.oracle.com /  
/$ORACLE_HOME/ows/admin/website40/oem/ NONE
```

注意: この問題が起こるのは、Enterprise Manager に同梱されているデフォルトの Oracle Application Server リスナーを使用している場合のみです。その他の Web サーバーでは起こりません。（バグ 841961）

- 5.4 ブラウザベースの Enterprise Manager にログインし、コンソールがハングした場合、(1) プロキシ設定がされていないか(2)MSVCRT.DLL ファイルのバージョンが 5.00.7303 以降であるか確認してください。
- 5.5 Enterprise Manager CD-ROM 内の Oracle Applications Server Listener を使用している場合、コマンドラインからのサービスの起動および停止ができません。コントロール パネルからのみサービスの起動および停止が行えます。
- 5.6 Oracle Application Server Listener は、Enterprise Manager を Web ブラウザから使用する目的においてのみ使用する権利を承諾します。

6. DBA Management Pack に関する問題

- 6.1 スキーマ名にデリミタとして"."が含まれていると、このスキーマの下にあるオブジェクトを表示する際に、詳細が空になります。(バグ 1055740)
- 6.2 ハイフンを含むデータベース・リンクは削除できません。(バグ 1063822)
- 6.3 ハイフンを含む表領域には割当て制限を設定できません。(バグ 1086360)
- 6.4 サマリー・アドバイザ・ウィザードを使用するには、すべてのディメンションおよびファクト表を必ず最初に分析する必要があります(「ANALYZE TABLE」SQL コマンドを使用します)。また、listener.ora および tnsnames.ora ファイルに外部プロシージャ Agent セットアップを設定する必要があります。詳細は、『Oracle®i Net8 管理者ガイド』を参照してください。
- 6.5 DBA Studio を起動する前に、ご使用の環境のネットワーク・ディレクトリが"/で終了していることを確認してください。"/で終了していないと、DBA Studio では tnsnames.ora ファイルの場所が正しく認識されません。たとえば、環境変数 TNS_ADMIN を /app/oracle/product/8.1.6/network/admin/と設定します(admin の後の"/に注意してください)。
- 6.6 DBA Studio には、スタンドアロンで起動するオプション(「データベースに直接接続」)があります。このオプションを使用する場合、接続用のユーザー名とパスワードは不要です。かわりに、DBA Studio が起動した後、ユーザー名とパスワードを入力して、個々のデータベースに接続する必要があります。
- 6.7 OS 認証は、データベースに直接接続しているとき(クライアント/サーバー・モード)にのみ機能します。Management Server を介して接続しているときには、OS 認証はサポートされません。
- 6.8 SQL*Plus Worksheet を英語以外の言語で使用するには、最初に \$ORACLE_HOME/sysman/config/ディレクトリにある dbappscfg.properties ファイルを変更する必要があります。このファイルを変更するには、SQLPLUS-NLS_LANG の値を追加します。この値はデフォルトの NLS_LANG パラメータと同じになるようにしてください。(バグ 1064035)
- 6.9 DBA Studio と Schema Manager の SQL および PL/SQL エディタで、マルチバイト・キャラクタが文字化けします。(バグ 1071099、1086767、1107951)
- 6.10 サービスが検出されていない状態でコンソールからアプリケーションを起動すると、「vto-4400: データベースが見つかりません。」というエラーに続いて、「アプリケーションの起動に失敗しました」というエラーが表示されます。これらのメッセージに

対して「OK」をクリックした後、Enterprise Manager の回転する地球のイメージが画面に表示されたままになります。回転する地球のイメージを削除するには、コンソールを終了する必要があります。（バグ 1034784）

- 6.11 「作成 マテリアライズド・ビュー」ダイアログで「リフレッシュ」タブを選択すると、ボタン操作以外の操作が不能になる場合があります。その場合は、「取消」ボタンでダイアログを閉じてください。（バグ 1050205）

7. Management Server に関する問題

- 7.1 同じリポジトリに接続しているすべての Management Server は、同じ DNS ドメインに属している必要があります。
- 7.2 Oracle Enterprise Manager リリース 2.1 がインストールされている Oracle ホームにある sqlnet.ora ファイルでは、sqlnet.authentication_services = (NTS)のように設定しないでください。
- 7.3 リポジトリの作成、更新、変更を行う場合には、Management Server が起動されるプラットフォーム上の Configuration Assistant を使用する必要があります。

この問題は、パッチを適用する事によって解決できます。パッチを適用する場合は、オラクル社カスタマ・サポートにご連絡ください。
- 7.4 Solaris 上の Management Server を停止する場合、以下のように、コマンド内にはユーザー名およびパスワードを含む必要があります。

```
oemctrl stop sysman/oem_temp@repository_database
```

8. リポジトリの移行とアップグレードに関する問題

- 8.1 一部のサービスの優先接続情報リストが、リリース 1.x のリポジトリからリリース 2.1 のリポジトリに正しく移行されないことがあります。この問題が発生したときには、リリース 2.1 のコンソールでサービスの優先接続情報リストを手動で設定する必要があります。（バグ 751627）
- 8.2 Enterprise Manager Migration Assistant は、Windows NT でのみサポートされています。Migration Assistant では、ソースおよび宛先リポジトリのデータベース・プラットフォームに関係なく、リリース 1.x のリポジトリからリリース 2.1 にリポジトリ・データを移行できます。

9. 統合アプリケーションに関する問題

9.1 Oracle Applications Manager に関する問題

- 9.1.1 Oracle Applications Manager コンソールから新規ノードを検出したとき、ナビゲータ・ツリーは自動的にリフレッシュされません。
- 9.1.2 本リリースでは、Oracle Applications Manager は Combined Specialization Rules 定義の機能を含んでいません。
- 9.1.3 Oracle Enterprise Manager コンソールから Oracle Applications Manager コンソールを起動しようとして"VTK-3027 : Failed to Launch Oracle Applications Manager" というエラーが出た場合、次のどちらかの理由が考えられます。
 - (1) Oracle Applications Manager サーバー拡張機能が中間層にインストールされていない。
 - (2) Oracle Applications Manager プロセスが中間層で動作していない。
- 9.1.4 Web ブラウザ上で動作する Oracle Applications Manager では、ヘルプ・コンポーネントが動作しません。

9.2 Oracle Replication Manager に関する問題

- 9.2.1 Replication Manager は、自動的にリフレッシュされません。ツールバー上の「リフレッシュ」ボタンを押してリフレッシュしてください。
- 9.2.2 Replication Manager は、マスター・グループ内の配置テンプレートへのオブジェクトのみ追加することができます。それ以外のオブジェクトを追加する場合は、レプリケーション管理 API を使用してください。
- 9.2.3 Management Server 経由で Oracle Replication Manager に接続したとき、優先接続情報リストに接続情報が既に入力されている場合、Replication Manager での処理を行えません。接続情報を書換えるか、直接 Oracle Replication Manager に接続してください。(バグ 1086839)

9.3 Oracle *interMedia* Text Manager に関する問題

- 9.3.1 本リリースの Oracle *interMedia* Text Manager は、シソーラスの管理はサポートされません。

- 9.3.2 プリファレンスを選択しても、SQL 文中にそのプリファレンスが現れないため、正しく索引が作成できない場合があります。(バグ 1161555)
- 9.3.3 Management Server 経由で Oracle *interMedia* Text Manager に接続すると、接続したとき、優先接続情報リストに接続情報が既に入力されている場合、*interMedia* Text Manager での処理を行うことができなくなります。接続情報を書換えるか、直接 *interMedia* Text Manager に接続してください。(バグ 1161594)
- 9.3.4 類似作成(create like)を行ってからプリファレンス・オブジェクトを変更すると、元の属性を引き継ぐため、SQL 文の実行が失敗します。(バグ 1161581)

9.4 Oracle Enterprise Security Manager に関する問題

- 9.4.1 オンライン・ヘルプを起動しても、ヘルプ内の操作が不能になる場合があります。(バグ 1076134)